

令和5年度 京都府立向陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階、実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
○家庭や地域社会から信頼され、期待される安全・安心で魅力ある学校づくりを推進する。	○第1学年対象のICT活用状況調査の結果、全体として教員の学習用タブレット端末使用割合は50パーセントを超えているが、今後は全ての教員が学習用タブレット端末を効果的に活用できるよう研修等の取組を進める。 ○1、2年生では、担任、副担任がチームを組んで、地域と連携した総合的な探究の時間を進めることができた。今年度はさらに取組を深化させて、生徒たちの自主性や自己有用感を醸成し、企画力や提案力、発信力を育む取組にしたい。 ○校則の見直しについて、生徒会とPTAの意見交流の場を持つことができた。今後は、生徒が校則について主体的に考える機会を増やし、規範意識や自律性の醸成につなげたい。 ○新型コロナウイルス感染症が収まってきたことから、地域の小学校と連携した学習支援やボランティア活動に取り組むことができた。今年度はさらに地域社会との交流の機会を増やし、社会参画意識の向上を図りたい。また、部活動加入率を高めて、学校の活性化や魅力化につなげたい。 ○進路意識の醸成や学力向上のための実力テスト準備期間や総合型選抜に対する面接指導や志望理由書作成など、新たな取組の実施や従来の取組の深化を図ることができた。今後は、3年間の進路指導スケジュールを教職員と生徒が共有する中で、学力の向上と希望する進路の実現を目指す体制を作っていくたい。	○学習指導要領の趣旨に沿って評価の工夫やICTの活用に努め、わかる授業、伸ばす授業を追究するとともに、総合的な探究の時間を適切に実施し、生徒の学習意欲を喚起し、確かな学力を育む。
○一人一人の生徒の個性と能力を最大限に伸ばし、将来の夢や可能性を広げる確かな学力をつける。		○挨拶の励行、遅刻の防止、身だしなみの指導などにより基本的生活習慣の育成を図るとともに、生徒や保護者、専門家などの意見も参考にしながら、校則のあり方について検討し、高い規範意識や自ら考えて行動する姿勢を育む。
○知徳体美のバランスのとれた生徒を育成し、すべての生徒がよりよい社会の構築に貢献できる力をつける。		○教職員、生徒が3年間の進路指導スケジュールを共有し、生徒全員の学力の向上と希望する進路の実現を目指す。
		○積極的な地域連携、校種間連携を進めるとともに、部活動やボランティア活動、読書活動等を推進し、積極的に挑戦する姿勢や自己有用感、社会参画意識を育む。
		○学校の特色化・魅力化について検討し、スクールポリシーの策定につなげるとともに、積極的な広報を行うことにより志願者の拡大を図る。

評価領域	重 点 目 標	具体的方策	評 価		成果と課題
学習指導	ICT機器利活用の推進等により基礎学力の向上を図る。	ICT推進会議を中心に組織的な取組を進め、ICT機器を利用した授業実践の交流等により、特に学習用タブレット端末の授業や家庭学習場面での活用を進める。			
	総合的な探究の時間を中心に探究活動を進め、生徒の自己実現につなげる。	教育推進部学年担当者が、具体的な指導計画の提示や関係諸機関との連携等を行い、総合的な探究の時間担当者が効果的に授業をすすめることができるようにする。			
生徒指導	問題行動の未然防止とともに、基本的生活習慣の確立と自己指導能力の育成を図る。	課題を抱える生徒へ多くの教員が携わる機会を設けることにより、生徒自らが自発的・主体的に発達していくことができるよう生徒への声かけ、指導の充実を図る。 他分掌とも連携して朝の登校指導・遅刻指導等を学校体制で組織的に行い、継続した指導をとおして規則正しい生活習慣の確立をはかることにより、遅刻指導の延べ件数を各学年100件未満とする。			
	部活動や学校行事に取り組む中で、自主的・主体的に行動し豊かな感性を持った生徒を育成するとともに、校則について生徒会・PTAと協力して見直しを進める。	新歓や生徒会のイベントの内容を充実させることにより多くの生徒に部活動への興味を持たせ部活動の加入率を昨年度より5%以上高める。 向陽祭の運営を生徒会主体にして、生徒自身の企画・運営力を高める。 校則について、生徒会を中心に意見を表明し議論する場を設け、生徒自身が本校の校則についてその意義・改善点を考えることによって、主体的に社会で生きる力を育む。 成人年齢の引き下げを踏まえ、社会人としての自覚を促し法令遵守の意識を高める。			
進路指導	3年間の進路指導計画をもとに、生徒の進路目標の達成をはかるとともに、生徒への進路相談機能を一層充実させる。	3年間の進路学習・進路指導計画の「見える化」をはかり、教員・生徒とともが3年間を見通して「今行うべき進路に関する行動はこれだ」と明確な指標を示して日々の学習を進路学習につなげる工夫をする。「学びの基礎診断」の適正配置及び分析（令和3年度）、「進学補習の在り方」の見直し（令和4年度）に引き続き、「小論文指導」や「面接指導」、「自己PR指導」等の在り方について改善を図る。数値目標としては、新たに3年生に対し「進路決定と満足度」についてのアンケートを実施し、「満足できた」が80%を超えることを目標とする。			
人権教育	自己と他者を尊重する態度を培う。	講演や視聴覚教材を用いて様々な人権問題を扱い、正確な知識を獲得し、自らの行動指針を考えさせる。各教科等の教育活動の中で人権意識を涵養し、望ましい人間関係を形成する。			
環境教育	環境教育の充実と学習環境の整備に努める	学習環境を整える態度を養うために、日常の清掃活動を徹底するとともに、各学期に美化委員による教室美化点検や広報活動を積極的に行う。			
健康・安全	生徒自ら健康の保持増進ができるよう健康教育を推進する	各学期に保健委員による教室の二酸化炭素濃度の測定や広報活動を行うとともに、1年生対象の性感染症講演会の講演会や各種講習会を計画・実施する。			
学校図書館	図書館が持つ読書・学習・情報センター機能により、教育活動を支えるとともに、生徒が読書活動をとおして自ら考え行動できるように働きかける。	本を豊富に揃え、探究型学習やICT教育にも対応するためGIGA回線の導入や、老朽化している図書の備品（椅子など）の更新を行い、生徒や教職員に活用される魅力的な図書館づくりを進める。 思考を深め、自ら行動できる生徒を育てるために活発な図書委員会活動や、教科や分掌との連携を行う。生徒と本の出会いの機会を演出する様々な取り組みをすすめる。			
危機管理	安心安全な教育環境の整備	新型コロナウイルス感染症が収まりつつあり、地域に開かれた学校教育活動が再開されることから、来訪者への入退管理の徹底、確認、声掛け、案内等確実な窓口対応を行い、来訪者の把握を行う。また、定期的に校内巡視を行い、死角となる場所を把握するとともに、これを改善し、安心安全な教育環境の整備を進める。			
家庭・地域社会との連携	地域や中学校に対して積極的に広報活動を行い、向陽高校の魅力をしっかり発信する。	中学校訪問の見直し（教員配置、時期・回数、配布物、情報伝達等）、ホームページの有効活用、SNSの利用、地域への広報紙の発行等を行う。			
	学校から各家庭に必要な情報が迅速かつ確実に伝わるようにする。	さくら連絡網の全家庭登録、機能の最大活用を進めることにより、家庭との連絡等を円滑・迅速に行えるようにしていくとともに、ペーパーレス化等効率のよい情報伝達を行う。			

学校関係者評価委員会による評価	
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	
---------------	--